

アグネス大使 シリア周辺国訪問

シリア難民の子どもたちを「失われた世代」にしないために



©日本ユニセフ協会

内戦が始まる前、シリアは、数十年にわたって続いたユニセフの支援からの“卒業”が間近に迫っていました。

ほぼすべての子どもが義務教育を享受（初等教育就学率＝95％）。乳幼児死亡率は先進国も含めた世界195カ国中115位で、乳幼児の予防接種率も80～90％と、日本と比べても非常に高い水準を達成していました。

しかし、6年にわたる内戦は、国中に整備された社会的サービス網を完全に破壊。以前は全国民の9割が使えていた安全な飲料水の確保もままならず、衛生環境も急激に悪化し、“遠い昔のこと”だった子どもや妊産婦、乳幼児を抱える母親の急性栄養不良も報告されるようになりました。

シリア国内で支援を必要としている子どもは、およそ600万人。これに、周辺国に逃れたおよそ240万人が加わり、800万人以上の子どもたちが、二度と取り戻すことができない「子ども時代」を奪われています。シリアは、未来を担う世代を失う危機に直面しています。

日時

3月15日(木)～18日(日)

開催時間／10:00～17:00(最終日15:00)

会場

盛岡市 プラザおでって
2Fギャラリー

入場無料

花巻会場

3月20日(火)～24日(土)

花巻市 妙圓寺



©日本ユニセフ協会

アグネス・チャン ユニセフ・アジア親善大使は、難民キャンプでの支援に留まらず、地元の学校での受け入れなどを含めた周辺国の地元政府やユニセフによる「失われた世代」を作らないための取り組みを取材しました。

会場で、子どもたちのくらしを体験してみませんか？



子どもたちのくらしを体験

水がめでの水汲みやマラリア予防蚊帳の体験やワクチン用保冷箱などの支援物資の展示も行います。



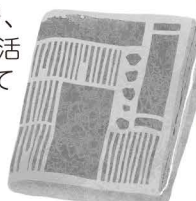
ボランティアしてみませんか

古切手セービングも行っていきます。一緒にやりませんか。



インドの紙袋作り～児童労働体験～

インドのスラム街の子どもたちは、新聞紙から紙袋をつくり、それを売ったお金で、家庭の生活を支えています。



古切手・書損じはがきを受け付け

ユニセフ募金、募金につながる「書損じハガキ」「外国コイン」「古切手」を受け付けています。ご協力ください

